

BASEBALL

TEIKYO UNIV.
SPORTS OFFICIAL
YEARBOOK 2025

TEIKYO UNIVERSITY SPORTS OFFICIAL YEARBOOK 2025 BASEBALL



帝京大学硬式野球部

TEIKYO UNIV. SPORTS OFFICIAL YEARBOOK 2025

BASEBALL

120

TEIKYO

All in, All win

一生懸命な選手たちに心から寄り添いたい

INTERVIEW

監督 唐澤 良一

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

昨年、一部リーグを経験して自信をつけた選手たちは、今年「日本一」を目標に掲げてシーズンを戦う。先輩たちから「全員で戦う」意思を引き継いだ選手らを見て、監督はどんな思いを抱いているのだろうか。

― 4季ぶりの一部復帰となった2024年春季リーグ戦。どんな思いで臨みましたか？
春に関しては、「挑戦者のつもりで試合に臨もう」と話をしていました。（10校1試合総当たりの）二部で「負けたら終わり」というリーグ戦を経験してきたため、選手全員が1試合1試合に対して執着心を持ってくれたのが、いい方向に向かいましたね。
― 一部復帰、即リーグ優勝の最大の要因は？
スタンドも、フィールドにいる選手も一体感を持って戦えたことだと思います。一人ひとりが常に前向きな気持ちで、リーグ戦に臨んでくれた。「なんとか一部で勝つんだ」という思いが、グラウンドで練習していても、今まで以上に伝わってきましたね。帝京大学は部員数が少ない中、個の力よりも全員の力で戦う集団。それぞれの役割を各自がしっかりと認識して、力を発揮してくれたのが、勝てた要因だと思います。
― それが、今後も帝京大学の戦い方になるのでしょうか。
二部降格、一部昇格……とさまざまな経験をした学生が、そうした経験から学んだ大切なものを、後輩たちにつないでくれています。そのいい流れを、今年のチームも引き継いでいるので、楽しみです。

― 今年のチームの特長は？
とにかく元気がよく、明るいですね。四年生のうちベンチを含めリーグ戦を経験している選手は半分ほどですが、全員が「リーグ優勝、日本一」という言葉をしっかりと口にしています。「俺たちはやるんだ」という強い意志が感じられ、見ていて非常に頼もしいですね。昨春、全日本大学野球選手権に出場したこと、そこで天理大学に完封負けを喫した悔しさ、大きなモチベーションになっていくのだと思います。
― 部員たちで決めるスローガン『All in・All win』は、監督の理想とするチームをよく理解した言葉ですね。
二部から一部に昇格して戦った昨年は『Restart』でした。毎年、チーム状況の変化になかなかよく合っていますよね。あとはスローガンの意味を全員がきちんと理解し、その気持ちを持って野球に取り組めるかどうかです。
― 部員の様子を見ると、大丈夫そうですね。
今回、2月のキャンプを12日間、休みなしで行いました。みんなしんどい、しんどいと言いながらも、諦めず、必死についてきましたね。だからキャンプが終わって真っ先に、「これほど充実したキャンプを送れた年はなかった」と全員に伝えました。

― みんな自信になりますね。
そうなるくれるといいんですが。私も含め、本当にしんどかったんですよ（笑）。正直4日目ごろから私自身、「あと何日あるんだ？」と思っただけ（笑）。今年は雨も降らなくて、どこかで少し（ベースを）落としてあげなきゃいけないなと思いつつも、ほぼフルで走り抜けました。
― どんなメニューに力を入れたのですか？
一番キツイのは全体練習を行ったあと、午後3時ごろから1時間半程度の強化練習です。特守、ランニング、ウエイトなど、スタッフが分担して担当しました。私はいわゆる「連タイ」、打ち込みです。とにかくキツイから、「もう何もかもさらけ出して、ギヤーギヤー言いながら打とう」と言って、私も選手たちと一緒に声を出したり、笑ったり。タイを上げすぎて、手首が腱鞘炎になりました（笑）。振る力は着実に付いてきていると思います。
― 帝京大学硬式野球部は少人数制であることが特長だと思えます。その理由と、少人数だからこそその利点を教えてください。
以前は部員数が100人を超えていたこともありましたが、しかし結局、その人数だと選手の間に温度差が出てしまっんですね。少人数にすれば、全員が同じ練習

習もできる。言い換えれば全員にチャンスがある。少人数のデメリットは故障者が出たときですが、その対策として、誰が（試合に）出ても同じことができるようにしなさい」と口うるさく言っています。
― それは全体の底上げにもつながりますね。
まず部員のモチベーションが落ちないことが大きいと思います。私たちも「帝京で頑張る」と言ってくれた部員に対しては、一人ひとり手厚く、寄り添ってあげたい。だから、今はこちらから歩み寄っていくことのほうが多いかもしれません。
― その中でも、監督が起用したくなる選手はどんな選手ですか？
もちろん結果を出している選手を、とは一番に思います。次に、日ごろの姿勢や行動も大事にしてあげたい。一生懸命な選手にはチャンスを与えるし、心の底から「打ってくれよ」と思います。ただし、ずっと結果が出なかった場合はシビアに判断します。とはいえ、公式戦のメンバーは25人。選手によく言っているのは「メンバーにはそれぞれの役割がある」ということ。「自分はこの役割に徹しよう」と思ったことを全うしてくれば、それもメンバー入りにつながります。選手にはプレーで気持ちを表現してほしいです。

プロフィール

からさわりょういち

1969年生まれ。大阪府出身。上宮高一帝京大―東芝（内野手）。東芝時代は日本選手権優勝、都市対抗野球大会出場などの経験を持つ。1999年から帝京大でコーチを務め、2011年1月に監督に就任。2024年春季リーグ戦では14季ぶりの優勝に導いた。

一戦一戦、全員で勝つ！

INTERVIEW

主将 宮城 塁

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

周りをよく見ることが長所だったという主将の宮城塁。チーム全体に目を配りながら、「一戦一戦」の意識をどう全員に意識付けするか。「All in, All win」の新スローガンのもと、1年間を戦い抜く決意と意気込みを聞いた。

― 監督指名による主将就任。予想はしていましたか？
ひとつ上の先輩方に、「来年、主将になるかもしれないから頑張れよ」と言われていて、一応心の準備はできていました。
― 自分では、どこが認められたと思いますか？
高校時代も、大学入学後もまとめ役的なことは一度も経験がなかったし、あまり積極的に出るタイプではありませんでした。ただ周りをよく見るようにはしてきたので、そこかなと思います。
― その長所を生かして、どんな主将になりたいですか？
メリハリを付けることと目配り、気配り。困っている人がいたら、すぐ気づける主将になりたいです。
― 久野副主将とのコンビネーションはどうなりそうですか？
久野も自分からガツと前に出るタイプではなく、大まかなところは僕とキャラが似ていると思うんです。役職者以外の四年生は自分大好き人間で、キャラが濃い人ばかり（笑）。彼らとよくコミュニケーションを取って協力してもらいながら、僕ら二人だけでなくみんなでチームをつくり上げていく感じになると思います。
― とすると2025年のチームカラーは、どんなもの？

キャラクターとしては自分から出ていくタイプの四年生を僕と久野で抑えるところは抑えて、いい方向に持っていければいいかな、と。野球の面では目立つた選手がいなくて、打撃陣はつないで1点1点、取りに行く。投手陣は昨年の経験がある選手が少ない分、どう継投していくかも力ギになるかと思っています。
― その辺のチームカラーを踏まえて、今季のスローガン「All in, All win」が決まったのでしょうか。
そうですね。「All in」が「野球に対してすべてを注ぐ」、「All win」は「全員で勝つ」という意味です。部内で勝つ中から、四年の岩田（大澄選手）が出した言葉を全員ミーティングで選びました。
― 監督、コーチが、日ごろから部員に求めていることは？
目の前の一戦一戦を大切に戦っているという事です。リーグ戦なので、負けても次の試合がある。それは二部にいたときからずっと監督が口にし続けていました。そうして一試合一試合、目の前の試合を全力で戦う意識が、一部昇格や昨春の優勝にもつながったのだと思います。
― その意識を持つ中でもみんなが大切にしていたのは、どんなことですか？
ミスは付きものなので、ミスをし

たあと、いかに引きずらないか、切り替えられるかが大事になってきます。昨春は東海大学に一敗しましたが、それを引きずらずに次につなげることができたのが良かったのだと思います。
― 昨春は途中出場が多かった宮城選手が、秋にレギュラー定着するまでには、どんな練習を重ねたのでしょうか。
一番は守備ですね。僕はひとつ上の先輩の山本晃聖さん（現JR東日本東北）と、全体練習が終わった後の基礎練習からノックまで、ずっと一緒に練習をしていました。晃聖さんは下級生のころから試合に出ていた経験に基づいて、いろいろアドバイスをくださいました。本当に基礎から教えていただいたので、ミスも少なくなりましたし、自信を持ってプレーできるようになったと思います。バッティングも先輩方や同級生とたくさんコミュニケーションを取りながら、練習していました。
― 首都大学の一部リーグでレギュラーに定着し、そこからコンスタントに成績を残すために必要なことは、なんだと思いますか？
試合は週末に行われるので、次の試合までの1週間、学校の授業もある中でどう調整していくか。疲労を抜きながら、自分の課題を改善していくことが大切

になってくると思います。
― チームとしては？
やはり試合後の切り替えがうまくできるチームが勝ち続けていくと思います。負けた日に反省することも大事ですが、引きずらず、翌日それをどう生かして雰囲気や活気のある練習ができるか。そこは僕と久野からミーティングなどで声掛けもしていきたいです。
― 宮城選手自身はこれまでの3年間、帝京大学で何を学びましたか？
大学では高校までと違って自分で考え、行動に移さなくてはいけないことが多くあります。それを継続する力が身に付きました。
― これまでは継続できないこともあったのでしょうか。
高校のときは全体がきつすぎて、「もう嫌だ」と思うこともありました。今は自分の時間も増え、その時間に自分がすべきことを考えて行動し、なおかつそれを継続できるようになりました。
― 最後の1年はどんな年にしたいですか？
後悔のない1年にしたいです。チームとしても個人としても、こうしておけばよかった、ということを――「こう伝えておけばよかった」とか、「この練習をしておけばよかった」ということを、できる限りなくす1年にしたいと思います。





INTERVIEW

主務 池田 圭吾

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

今季のチームの目標は「日本一」 自分も運営の頂点をめざす

― 主務の仕事内容を教えてください。

部の会計処理と、練習試合やオープン戦を組むこと、試合のスケジュール管理などが主務の主な仕事です。部の公式インスタグラムの管理・運営も行っています。

― インスタは、池田主務の発案で始めたとか。

「もっと多くの方に硬式野球部を知ってほしい」と思い、自分が二年生の秋に提案しました。自分自身、そういうものを作るのが好きなこともありまして（笑）。

― 選手たちとの接し方や関係性で、意識していることはありますか？

寮で顔を合わせたらなるべく自分から話しかけて、多くの選手とコミュニケーションを取ることに。何でも話をしてもらえそうな関係性を築けたらいいなと思っています。

― 池田主務自身、大学生活のラストイヤーはどんな年にしたいですか？

今季のチームは「全員で同じ物事に取り組める」ことが魅力であり、長所です。そのチームが丸となって「日本一」をめざしているので、自分も日本一の運営をしたいと思っています。時間を有効に使いながら、効率よくチームのために動いていきたいです。

T

INTERVIEW

副主務 今川 実玖人

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

裏方の仕事で自分の世界が広がった 選手の笑顔のために貢献したい

― 帝京大学でマネージャーを志した理由は？

高2のときに肘を痛め、マネージャーに転向しました。そこで野球部が多くの方に支えられていることを知り、裏方の仕事をしたいけば、もっと自分の世界が広がるんじゃないかと感じました。その後高校の先輩の紹介で練習を見学させていただき、ここでマネージャーをしたら自分としてもっと成長して社会に出られると思って進学を決めました。

― 副主務としての仕事内容と、1日の過ごし方を教えてください。

自分は、さまざまな資料や予定表などを作成する作業を主にし

ています。お客様がいらしたらグラウンドで対応することもあります。主に寮で資料作りをしています。マネージャーとしては選手が寮に戻ってきた後、練習の手伝いもします。リーグ戦の際はドリンクの準備など、ベンチ裏の仕事をしています。

― マネージャーのやりがいはないですか？

選手の笑顔と、「ありがとう」と言ってもらえたとき。昨年全年日本に出て、みんなから「お前の応援のおかげ」とか、監督からも「お前たちが支えてくれたから」と言っていたいたときは、本当に泣きそうになりました。

T



本気で日本一を取りにいく！

INTERVIEW

副主将 久野 陽真

自分から何かを発信することはもともと苦手だったという副主将の久野陽真。投手が役職に就くのは珍しいケースだが、自分を見直すいいきっかけとして捉えている。帝京大学硬式野球部での最後の1年をどう過ごすか、意気込みを語ってもらった。

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

― 投手が役職に就くのは珍しいケースでは？

自分の出身校である岡山芸芸館高のコーチ・坂本有佑さんが2013年度に副主将を務めたそうです。副主将に決まった後、監督に呼ばれ、自分の精神的な弱さやもろさを見直す機会にしてほしいと言っていたきました。自分でもその通りだと思いました。

― どんどころに弱さを自覚していたのですか？

実は監督に言っていたくまで、自覚がなかったんです。でも試合前の集中力のなさなどいくつ

か指摘され、自分でも思い当たる節がありました。

― 副主将を務めることで、それをどう見直せそうですか？

人前に立つには、まず自分の行動を改めなければいけません。そういうところから自分を見直せるかなと思います。自分は今もともと性格的に、あまり人に何かを言えないタイプ。だから、練習のときも一人黙々と行動するよう、練習態度を律することを心掛けています。これを機に、人に弱さを見せないよう、自分を変えていきたいです。

― 久野投手は昨年リーグ戦で投

げ、春には一部優勝を経験しました。どんな学びがありましたか？

「当たり前のことを当たり前にしていれば、勝てるんだな」ということ。でも、それが簡単にはできないのも確かで、「練習以上のものをを出せないのがリーグ戦」ということも強く感じました。

― 投手をしていると、「四球は点につながら」とよく言われてきました。実際、自分も四球を出したら失点していますし、四球がないときはヒットでランナーを出しても失点につながらないケースが多かったです。また、四球は味方の守備のリズムにも影響するので、余計状況を悪くしてしまっています。

― 昨季は先発と抑えの両方を経験しました。それぞれのやりがいと難しさは感じましたか？

やはり試合をつくってチームに貢献できることが、先発のやりがい。一方、個人的には先発して7、8回までの長いイニングを投げるのができなかったので、ベース配分が難しいところだと感じました。後で投げるやりがい、試合を締めることができるので、みんなが喜んでくれる顔、一番高いところから見られること。難しさは僅差で出番が回ってくる点だと思

いますが、自分は実のところ緊張感のある、接戦の場面のほうが力を発揮できるので、楽しく投げさせてもらっていました。

― 今季はどちらでいくことになるのでしょうか？

おそらく後ろだと思っています。経験もありますし……。

― 緊迫感を味方のできるメンタリティーもあるでしょうね。

そこが大きいと思います。マウンドでの経験値が積み重なることで、ピンチの場面での心構えなども成長できたと思います。

― 体の面では入学後、どんなトレーニングをしてきましたか？

けがをしない体をつくらうと思う、スクワットやベンチプレスに力を入れてきました。その成果もあってか、こままで一度も大きなけがはしていません。今は球速を上げるためのトレーニングにも力を入れています。自分は体の動かし方が下手なので、動作系のトレーニングや可動域を広げるストレッチも取り入れています。

― 大学生活最後の1年、どんな年にしたいですか？

昨年リーグ戦に優勝し、全日本大学野球選手権に出場するという、素晴らしい経験をさせていただきました。その経験を生かして後輩にいい景色を見せてあげられるかは、僕ら次第。もう一度あの神宮の舞台に立って、本気で日本一をめざしたいと思っています。

T



帝京大学スポーツ医科学センター講師／**大川 靖晃**
トレーナー

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

アスレチックトレーナーは“なんでも屋” どんなことでも相談に来てほしい

― 硬式野球部に入部した選手たちはまず、どんな場面で大川先生の指導を受けるのですか？
入寮してすぐのキャンプで、ウォーミングアップやトレーニングの指導を行います。特に投手陣はトレーニングの時間が多いので、ランニングや体幹のトレーニングも私が見えています。
― 授業が始まると、先生の拠点は主に八王子キャンパスとスポーツ医科学センターになる？
私はスポーツ医科学センターの講師で、大学でも「トレーニング学」「スポーツコンディショニング論」「スポーツ解剖学」などの授業を持っています。私の授業に限らず、スポーツ医療学科の授業はすべて、硬式野球部の選手にとってはためになる内容になっています。4月以降はスポーツ医科学センターでのトレーニングを希望する学生に

対しては、私がセンターの機材を使って、アドバイスを行います。クリニックなどと連携してのリハビリサポートも行っています。
― 卒業生で、寮の設備やスポーツ医科学センターをフル活用して大きく成長した選手はいまいたか？
今季ソフトバンクに育成ドラフト指名された大友宗選手は、4年間で体が驚くほど変わり、今もほとんどの数値の最高記録を保持するほどに成長しました（P29参照）。昨年の例でいえば、エースの榮龍騰投手。投球動作測定で足りない部分を見つけて、スポーツ医科学センターのトレーニングルームなどで練習を積み、4年の春にはMVPを獲得活躍を見せました。
― どういう選手が大学で大きく伸びますか？
今の選手は非常に真面目で、リーグ戦の夜もトレーニングルームがいつぱいになるほど。その中でもやはり、自分の行っているかを確認に意識して取り組んでいる選手は伸びます。私はアスレチックトレーナーで、学生にとってはいい意味で“なんでも屋”だと思っています。トレーニング、ケガというワードに縛られず、どんな内容でもぜひ相談してください。

T



コーチ **齋藤 貴志**

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

未来の自分へ向かってコツコツと 「やり切った」と言える大学生活を

― 昨春、久々の一部リーグを制した要因は、投手目線というところにあるのでしょうか？
投手陣に限らず、チームが一丸となって開幕カードの日体大戦に臨み、そこで勝ったことが大きかったと思います。春は「入り」で2連勝し、その勢いで最後まで突っ走りました。
― しかし秋は3位。連覇の難しさを感じましたか？
戦力的には整っていたので、秋も行くぞと思っていました。しかし春とは逆で、第1週に2連敗。気持ちの部分でそれを引きずり、立て直せなかった。そのため、「次は勝たなければ」というプレッシャーのようなものも感じてしまったと思います。
― 今季の投手陣は、どんな特長がありますか？
際立った選手はいませんが、昨

年公式戦で投げた投手も残っているの、リーグ戦を戦い抜く力はあると思います。
― 2月のキャンプは、かなりハードだったそうですが、投手陣はどんな練習をしたのですか？
例年より試合形式を多くしました。キャンプ前に球数を投げて、ある程度できている状態だったので、早いうちからバッターと対戦させました。
― 大学の4年間で伸びる投手は、どんな選手ですか？
コツコツと、ひたむきに練習をしていく選手。急にはうまくならないし、急に球速が上がるわけでもない。ウエイトでもランニングでもピッチングでも、「いつかこうなるんだ」と思って、コツコツ続けること。また、自分の体としっかり向き合い、トレーナーと相談しながらトレーニングもケアも進められる選手が、けがなくリーグ戦でも投げることができるですね。
― 帝京大学硬式野球部出身の投手にはこうあってほしい、というところは？
4年間しっかり、自己満足でもいいから「やり切ったな」と思えることをもって、卒業していつてほしいと思います。卒業後野球を続けるにしても続けられないにしても、大学時代にやり切ったことを糧に、成長し続けてくれるといいですね。

T

コーチ **渡邊 諒介**

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

「今の自分にできること」とは？ 全員が考えることで一体感につながる

― 春のリーグ戦に先駆けてのキャンプ。守備・走塁面では、どんなことに主眼を置いて練習しましたか？
全体練習では「当たり前のプレーを当たり前にする」こと。みんなが全力で走る、スライディングをしっかりと行うなど、基本中の基本のプレーです。強化練習の特守は細かな技術練習というより、メンタルトレーニングの意味合いが強かったですね。班に分かれて互いを励まし合い、高め合いながら、厳しい練習をやり切りました。
― 帝京大学硬式野球部らしさ、今の部員たちの良さは？
みんな真面目ですね。トレーニングにしても練習にしても、あるいは食事の面でも自分でしっかり考えて取り入れている選手が多い。また二部で優勝し、一

部昇格を決めた23年の秋以降、フィールドで戦う選手とスタンドの部員との間により一体感が生まれたのも硬式野球部の特長であり、私自身とてもいいなと思って見えています。
― 池田主務、今川副主務が中心になり、スタンドをまとめたそうですね。
メンバー外の選手たちは、悔しくてたまらないはず。でも「今自分がチームのためにできることは何か」を考え、スタンドで一生懸命声を張り上げ、応援してくれました。それが、うちの部の特長になりましたね。昨年のエースだった榮は、1戦目に先発すると、ベンチ外になる2戦目はスタンドに行き、メンバー外の部員たちと一緒に声を出しながら楽しそうに応援していました。2戦目に投げていた松尾も、ベンチ外のときはスタンドで踊りながら応援していましたね（笑）。
― それが硬式野球部のいい文化、伝統になるといいですね。榮や松尾の姿には、下級生も見えて感じるところがあったでしょう。昨春のリーグ優勝や全日本選手権を経験した者がいるうちに、同様の経験を重ねて次々下の代につなげていってければ、この土壌がより肥えて、実りも豊かになると思います。

T



トレーナー **内田 幸一**

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

下級生に受け継がれる地道な努力 4年間続けることで必ず成長する

― 内田先生と学生が接する場は、どこになりますか？
私は主に、寮のウエイトトレーニングルームにいます。ただ、最初から私のほうで学生に「こうしなさい」と指示することはありません。学生が何か疑問に思ったり、壁にぶつかったりしたとき、質問をしてくれればそれに答え、一緒にトレーニングを進めていきます。
― 今の学生は、トレーニングも熱心にするそうですね。
真面目ですよ。今年でいえば、四年生の宮田率生投手が、みんなの良い見本になっています。彼とはずっと一緒に、肘の手術のリハビリをしながら、投球時の動作も突き詰めて取り組んできました。その中でプロ野球選手が自主トレで行う90種目ほどのアップを教え、どの動きがど

う投球動作にかかわってくるかなども、細かく伝えました。それを吸収しておレベルの高いメニューを要求してくるので、こちらも応えているところです。
― そうした様子は、他の選手を刺激するでしょうね。
続けることの大切さは伝わっていると思います。下級生には「宮田を見て勉強しなさい」と言っています。野手でも、三年の山田一晴選手は二度の大きな骨折に負けず、その間もできるトレーニングをコツコツ続けました。それを見て、四年の彦坂藍斗選手など、トレーニングに対する意識が変わり、今季は間違いなく中心選手になる。練習に対する取り組み方、目標の持ち方、成長の仕方において、山田選手がチームに与えた影響はとても大きいですね。
― 硬式野球部の学生としては、トレーニングに関してどんな知識を最低限持っていたほうがいいですか？
帝京大学は体やけがに関するところが授業で勉強できるという恵まれた環境があります。その中で、ある程度体の筋肉の名前や働きなどを覚えていると、トレーニングも理解しやすくなると思います。単位を取るためだけでなく、自分のために授業を受けているんだと意識して勉強してほしいですね。

T





2024 RESULT 2024年度 主な成績

春季リーグ戦(1部) 10勝1敗 勝点5 14季ぶり5度目のリーグ優勝			
試合日	対戦相手	スコア	結果
2024年4月6日(土)	日本体育大学	3 - 2	○
2024年4月7日(日)	日本体育大学	4 - 0	○
2024年4月13日(土)	筑波大学	7 - 3	○
2024年4月14日(日)	筑波大学	11 - 5	○
2024年4月27日(土)	東海大学	9 - 4	○
2024年4月28日(日)	東海大学	1 - 8	●
2024年5月4日(土)	桜美林大学	10 - 0	○
2024年5月5日(日)	桜美林大学	3 - 1	○
2024年5月11日(土)	東海大学	3 - 2	○
2024年5月18日(土)	城西大学	1 - 0	○
2024年5月19日(日)	城西大学	11 - 7	○
最高殊勲選手賞・最優秀投手賞 4年 榮 龍騰(津田学園高校)			
首位打者賞 3年 彦坂 藍斗(享栄高校)			
ベストナイン 4年 山本 晃聖(日本大学藤沢高校) 二塁手部門 3年 彦坂 藍斗(享栄高校) 外野手部門 1年 根本 剛希(学法石川高校) 外野手部門			

第73回全日本大学野球選手権大会 53年ぶりベスト8				
試合日	回戦	対戦相手	スコア	結果
2024年6月12日(水)	2回戦	関西学院大学	4 - 3	○
2024年6月13日(木)	準々決勝	天理大学	0 - 3	●

秋季リーグ戦(1部) 6勝5敗 勝点3 3位			
試合日	対戦相手	スコア	結果
2024年9月7日(土)	城西大学	4 - 5	●
2024年9月8日(日)	城西大学	4 - 7	●
2024年9月14日(土)	桜美林大学	6 - 2	○
2024年9月15日(日)	桜美林大学	4 - 1	○
2024年9月28日(土)	筑波大学	3 - 4	●
2024年9月29日(日)	筑波大学	1 - 4	●
2024年10月6日(日)	日本体育大学	6 - 0	○
2024年10月12日(土)	日本体育大学	7 - 3	○
2024年10月19日(土)	東海大学	2 - 8	●
2024年10月20日(日)	東海大学	2 - 0	○
2024年10月26日(土)	東海大学	8 - 4	○

横浜市長杯争奪第20回関東地区大学野球選手権大会				
試合日	回戦	対戦相手	スコア	結果
2024年11月6日(水)	1回戦	白鷲大学	0-2	●

2025 SCHEDULE 2025年度 主なスケジュール

2025年春季リーグ戦(1部) [大学一覧]	首都大学リーグとは、1部リーグ6大学、2部リーグ10大学の全16大学で編成されており、春季・秋季にリーグ戦を開催している。帝京大学硬式野球部は現在1部リーグで、左記の大学と優勝争いを繰り広げている。
● 日本体育大学	
● 筑波大学	
● 帝京大学	
● 城西大学	
● 東海大学	
● 武蔵大学	

【順位決定方式】
詳細は首都大学野球連盟公式ホームページでご確認ください。
<http://tmubl.jp>

第74回全日本大学野球選手権大会 [6月上旬]

横浜市長杯争奪 第21回関東地区大学野球選手権大会 [11月上旬～]

新人戦

第56回明治神宮野球大会

2025年秋季リーグ戦

※2025年5月現在の情報のため、変更となる可能性があります。



INTERVIEW

マネージャー 竹之内 涼花

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

連盟役員の活動でたくさんのことを吸収できた

― マネージャーを志した理由は？
高校時代から野球部のマネージャーをしていて野球がますます好きになり、大学でも野球にかかわりたいなと思いました。また経済学部で「スポーツ経営コース」があることも魅力に感じ、スポーツの勉強とマネージャー業を両立できる帝京大学に進学を決めました。
― 女子マネージャーの仕事内容は？
基本的には連盟役員としての活動になります。リーグ戦が始まると、3試合の日は朝7時ごろから丸一日、球場で運営の仕事をします。場内アナウンスや連盟のホームページ、SNSの速報や更新も女子マネージャーの担当です。
― 勉強との両立はどうしていますか？
リーグ戦期間中は金・土・日が埋まることが多いので、それ以外の平日の授業が終わってから、集中して課題に取り組んでいます。
― 最後の1年、どんなことをしてみたい？
リーグ戦を勝ち抜いて、神宮大会などの全国大会に行けば、私たち女子マネージャーもスタンドで試合を応援できる可能性が出てきます。そこで普段できない分、大声を出して帝京大学を応援してみたいです。

INTERVIEW

学生コーチ 永井 裕也

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

「勝つチーム」の雰囲気をつくっていききたい

― 学生コーチの役割とは？
「選手と指導者の間」にいる存在だと考えています。選手が試合に勝つため、また彼らのレベルアップのために、ベストな環境をつくるのが自分たちの役割です。
― 学生コーチで成長できたことは？
二年生のとき1年間、学生コーチとして最上級生になりました。上級生に対しても遠慮せず話をするよう心掛けました。そこでベンチにも入り、二部優勝、入替戦勝利を経験。チームが勝つときの雰囲気、勝ち方を知ることができました。その経験は、今年のチームにも生かせると思います。
― 勝てるチームになるためには？
やはりチーム力、お互いの信頼関係がチームの結果を左右すると思います。昨春リーグ優勝したときも、ひとつの四球や泥臭いヒットから点が入った。「自分が、自分が」という気持ちも大事ですが、あのときは「次のバッターにつなぐ」意識が強く出ていました。それが、帝京大学が勝つときのパターン。その良い見本を僕らの代でも示して、帝京大学の歴史に新しい歴史を刻めたいなと思います。

INTERVIEW

アナライザー 羽田 翔世

撮影＝川本 聖哉 取材・文＝前田 恵

チームの勝利に少しでも貢献できたら嬉しい

― アナライザーの仕事内容を教えてください。
大会期間中に、1日3試合のリーグ戦をすべて現地で見て、対戦相手の選手一人ひとりを分析。毎週木曜の全体ミーティングで、次のカードの資料をみんなに渡し、説明します。
― 先発が予想される投手の傾向などですか？
投げる確率の高い投手を中心に、持っている球種、対右、対左でそれぞれどんな傾向の投球をしてくるか、走者がいる、いないでどう変わるかなど、いろいろですね。あとは映像を見ながら、投手のクセを伝えるとか。選手から要望があれば個別にデータを出し、映像を見ながら話することもあります。
― アナライザーの一番のやりがいは？
やはり試合に勝ってくれるのが一番ですね。また、ちよつと助言をしてあげた選手に「やったよ!」と言ってもらえると、とても嬉しくなります。ただ基本的には、選手が各自の感覚を優先してくれたほうが僕はいと思っています。グラウンドの中には、きつと僕らには分からない駆け引きがある。そこを第一にプレーしてもらって、僕の出したデータは頭の片隅にちよつと置いてもらって、迷ったときに使ってくれるくらいがちょうどいいのかなと思いますね。

Infielder

PLAYERS LIST
2025
Baseball

内野手



TANAKA Keishi
医療技術学部スポーツ医療学科
日本学園高／羽田アンビシャス
188cm・80kg／右投右打

田中 慶至
1 年



YOSHIKAWA Tomoki
医療技術学部スポーツ医療学科
滋賀学園高／京都シニア
180cm・78kg／右投左打

吉川 朋希
3 年

Catcher

PLAYERS LIST
2025
Baseball

捕手



KONDO Koei
医療技術学部スポーツ医療学科
大宮東高／中央中
174cm・73kg／右投右打

近藤 孝栄
1 年



KATSUKI Rikito
医療技術学部スポーツ医療学科
神戸国際大学附属高／ヤング佐用スターズ
177cm・83kg／右投右打

勝木 力輝斗
4 年 寮長



MARUYAMA Taiki
医療技術学部スポーツ医療学科
文徳高／玉南中
173cm・84kg／右投左打

丸山 泰輝
1 年



KATO Ao
医療技術学部スポーツ医療学科
銚子商業高／海上中
173cm・79kg／右投右打

加藤 澄海
2 年



IKEDA Tatsuki
医療技術学部スポーツ医療学科
宇部鴻城高／湯田中
180cm・78kg／右投左打

池田 竜己
4 年



YAGAME Kazuki
医療技術学部スポーツ医療学科
日本大学第三高／相模ボーイズ
177cm・79kg／左投左打

谷亀 和希
1 年



KOIZUMI Yuki
医療技術学部スポーツ医療学科
関東学園大学附属高／加須シニア
168cm・65kg／右投左打

小泉 優樹
4 年



TAGUCHI Atsuto
医療技術学部スポーツ医療学科
享栄高／東山クラブ
186cm・90kg／右投左打

田口 敦登
2 年



OTAKE Naoki
医療技術学部スポーツ医療学科
関根学園高／小布施シニア
175cm・82kg／右投左打

大竹 直樹
4 年



SHINOHARA Asahi
医療技術学部スポーツ医療学科
中部大学春日丘高／東部中
186cm・88kg／左投左打

篠原 旭
4 年



TAKEBE Shinnosuke
医療技術学部スポーツ医療学科
帝京長岡高／東北福祉仙台北シニア
180cm・85kg／右投右打

竹部 新之介
2 年



KITAMURA Daito
医療技術学部スポーツ医療学科
智辯学園高／枚方ボーイズ
178cm・82kg／右投右打

北村 泰都
3 年



MIYAGI Rui
医療技術学部スポーツ医療学科
山口県校ヶ丘高／東江中
165cm・72kg／右投右打

宮城 塁
4 年 主将



SHIMADA Shoei
医療技術学部スポーツ医療学科
履正社高／大阪薬島ボーイズ
176cm・82kg／右投右打

嶋田 翔英
1 年



SAKURAI Kanato
医療技術学部スポーツ医療学科
作新学院高／那須野ヶ原ボーイズ
172cm・78kg／右投右打

櫻井 叶翔
3 年

PLAYERS LIST 2025

2025 年 帝京大学硬式野球部 プレーヤーズリスト

Profile 氏名 / 学部・学科 / 出身校 / 出身チーム / 身長・体重 / 投打

Pitcher

PLAYERS LIST
2025
Baseball

投手



ASAI Haruto
医療技術学部スポーツ医療学科
智辯学園高／奈良西シニア
183cm・80kg／左投左打

浅井 晴翔
1 年



NEGISHI Seiya
医療技術学部スポーツ医療学科
東北高／館林ボーイズ
183cm・77kg／右投左打

根岸 聖也
2 年



FUJITA Hiromasa
医療技術学部スポーツ医療学科
宇都宮工業高／上三川ボーイズ
185cm・88kg／右投右打

藤田 大雅
3 年



MIYATA Ritsuki
医療技術学部スポーツ医療学科
和歌山商業高／西和中
178cm・82kg／左投左打

宮田 率生
4 年



UEKURA Naoki
医療技術学部スポーツ医療学科
享栄高／東山クラブ
178cm・86kg／右投右打

上倉 直希
1 年



HASU Taisei
医療技術学部スポーツ医療学科
帝京第三高／ヤング相模ベースボールクラブ
173cm・73kg／右投右打

蓮 大誠
2 年



MIKAMI Hiroki
医療技術学部スポーツ医療学科
帝京第三高／所沢南シニア
175cm・75kg／右投右打

三上 大貴
3 年



ITO Tomoya
医療技術学部スポーツ医療学科
八王子北高／昭島シニア
176cm・76kg／左投左打

伊藤 智哉
3 年



INOUE Toma
医療技術学部スポーツ医療学科
金沢龍谷高／愛知豊橋シニア
184cm・80kg／左投左打

井上 透摩
4 年



OKITA Kodai
医療技術学部スポーツ医療学科
岡山学芸館高／岡山中央中
171cm・77kg／右投右打

沖田 幸大
1 年



YAMAGUCHI Haruto
医療技術学部スポーツ医療学科
宇部鴻城高／ヤング西福岡メッツ
189cm・87kg／右投右打

山口 明士
2 年



WATANABE Arata
医療技術学部スポーツ医療学科
西武台高／オール沼南ベースボールクラブ
183cm・87kg／右投右打

渡邊 新太
3 年



TAKANO Shu
医療技術学部スポーツ医療学科
東北高／セッカシニア
177cm・77kg／右投右打

高野 秀
3 年



KUNUGI Kiyoto
医療技術学部スポーツ医療学科
宇都宮工業高／鹿沼ボーイズ
180cm・80kg／左投左打

刃刀 聖人
4 年 投手リーダー



KUBO Ryoya
医療技術学部スポーツ医療学科
常葉大学附属菊川高／都筑中央ボーイズ
180cm・82kg／左投左打

久保 綾哉
1 年



YAMAZAKI Hayato
医療技術学部スポーツ医療学科
霞ヶ浦高／大泉中
176cm・78kg／左投左打

山崎 隼人
2 年



SHIMIZU Yoshito
医療技術学部スポーツ医療学科
岡山学芸館高／オール岡山ヤング
172cm・77kg／右投右打

清水 義登
2 年



HIGASHIYAMA Haruki
医療技術学部スポーツ医療学科
聖望学園高／狭山西武ボーイズ
173cm・77kg／左投左打

東山 陽紀
3 年 副寮長



HISANO Haruma
医療技術学部スポーツ医療学科
岡山学芸館高／赤穂東中
181cm・87kg／右投右打

久野 陽真
4 年 副主将



BASEBALL
TEIKYO UNIV.
SPORTS OFFICIAL
YEARBOOK 2025





入浴施設のような大浴場は、心身ともにリラックスできる憩いの場。すぐ隣には水風呂もあり、交代浴でリフレッシュや体のケアもできます。



清潔で広々とした食堂では、栄養士が考案したメニューを提供しています。食事以外にも自由に食べられる食パンなどもあり、各々のアレンジで楽しむのが人気。



今日のランチはカレーうどん！



合宿所内には洗濯機・乾燥機がそれぞれ28台設置。1台を三人で管理しているので、練習後の洗濯も混雑しません。

／今月も頑張るぞ！／



月に一度、部員全員が共有スペースに「今月の目標」を張り出します。

グローブやシューズをお洒落にレイアウト（写真左）。勝木寮長はウォークインクローゼットを勉強部屋に。得意の書道もここで（写真右）。



寮長 勝木 力輝斗

めざすは歴代1位！
みんなで協力し清潔に

－ 寮長の仕事内容を教えてください。

年4～6回ある大掃除の役割分担を決めること。あとは寮内を見回って汚れている場所や気付いたことがあれば、毎朝の分担掃除の担当者に指摘するとか。寮内でみんなが清潔に楽しく暮らせるよう、サポートする役割だと思っています。

－ 勝木寮長就任後、何か変えたり、新しい試みを始めたのは？

特にありませんが、トイレのスリッパを並べることで「床が汚れていたら、気付いた人が拭こうね」とは口酸っぱく言っています。

－ 寮生活で恒例のイベントといえば、なんでしょう？

部屋替えが年に3度ほどあります。渡邊コーチが決めますが、（発表前は）誰と同部屋になるか結構緊張します（笑）。

－ そんな寮の設備を目いっぱい利用して生活を充実させるなら？



二～三人で生活する約18畳の相部屋は年に数回引っ越し。異なる学年同士が同室になることで強い絆が生まれます。ダンスが踊れるほど広々としたお部屋です。

野球の面であれば、寮のウエイトトレーニングルームと室内練習場は使い放題なので、自分の時間を有効活用して、練習したいときにすぐに取り組みます。自分も寝る前「こうだったかな」と思ったときに室内練習場に行ってバットを振り、スッキリして寝られたこともありました。食堂のご飯もおいしいし、ヨーグルトや乳酸飲料、牛乳、卵、納豆など食べ放題。プロテインも寮で支給されますし、夕食後をお願いすればおにぎりも作り置きしてもらえます。

－ 昨春リーグ優勝したとき、寮では何が行いましたか？

優勝を決めた日の夜に、みんなで“炭酸ファイト”をしました。プロ野球などはビールかけですが、僕らは未成年もいるので炭酸水になったんです。でもそれがとても楽しくて、「今年もやろう！」とみんなで言っています。

－ 勝木寮長自身は学生生活最後の1年、どんな年にしたい？

もちろん試合に出て結果を残すことが一番ですが、とにかく1年間、野球をやり切ることでですね。自分は社会人野球に進まないの、野球人生はラスト1年。今年やらなかったら後はないので、妥協したくない。寮長としては「寮内の床シミゼロ」を目標に、自分自身も気付いたら拭くし、みんなに共有して、床に限らず歴代にないくらいきれいな寮と言われるようにしたいです。



室内練習場

地下にある室内練習場。学年問わず誰でも好きな時間に使用でき、マシンやティーを使った打ち込みができます。観を見ながらのフォームチェックも可能です。



二人で素振りできるくらい広々！



屋内練習場

グラウンド付近には広々とした屋内練習場もあり、雨天時の練習や自主練習にも最適です。



さまざまなマシンを使用できるウエイトトレーニングルームは、混雑時には待機列ができる合宿所内随一の人気スポット。帝京大学スポーツ医科学センターのトレーナーも来訪し、トレーニング指導や超音波マッサージも受けられます。



／プロテインの支給は助かります！／

帝京大学硬式野球部合宿所ガイド



／僕らの寮へようこそ！／

ウエイトトレーニングルーム



／パワー！／





硬式野球部を観に行こう

帝京大学硬式野球部 部長／帝京大学法学部 学部長 天日 隆彦



「All in, All win」で一戦一戦を大切に

2024年は大きな飛躍の年でした。首都大学野球春季リーグ戦（1部リーグ）では10勝1敗で他チームを圧倒、7年ぶり5度目の優勝を成し遂げました。続く全日本大学野球選手権でも健闘し、ベスト8まで勝ち進みました。

何がこの飛躍をもたらしたのでしょうか。2022年春のリーグ戦で1部リーグ最下位となり2部リーグ落ち、23年春の大会では2部リーグ5位にまで落ち込みました。しかし、試練の夏を乗り越えて、秋季2部リーグは全勝、一気に1部リーグ復帰を果たしました。つらく厳しい戦いの中で培ったスピリット、そしてチームワークが、2024年の飛躍の原動力となったに違いありません。

「リーグ戦優勝・日本一を達成する」が、今年の目標です。陰

しい道のりですが、「だからこそ本気でめざしたい」と選手たちは熱い思いを胸に秘めています。この目標達成のために掲げられた今年のスローガンが「All in, All win」です。「何事も全力で取り組み、全員の力で勝利をつかみ取ろう」。これが短い言葉に込められた含意です。

各チームの実力は拮抗しています。昨年秋季リーグ、わがチームは善戦したものの、6勝5敗で3位に終わりました。ここで守りに入れば、2年間で鍛え上げられたスピリットはあせてしまいます。しかし、持ち前のチームワークを生かし、「All in, All win」で一戦一戦を大切に戦っていけば道は開けます。今年がより一層の飛躍の年となることを願っています。

昨年、春季リーグ戦では、見事10勝1敗、勝点5で優勝。1部リーグ最下位となり2部リーグ落ち、23年春の大会では2部リーグ5位にまで落ち込みました。しかし、試練の夏を乗り越えて、秋季2部リーグは全勝、一気に1部リーグ復帰を果たしました。つらく厳しい戦いの中で培ったスピリット、そしてチームワークが、2024年の飛躍の原動力となったに違いありません。

部昇格後すぐのリーグ優勝というところで、首都大学野球連盟史上初の快挙を成し遂げました。全日本大学野球選手権でも関西学院大学に4-3で勝利。続く天理大学には惜しくも0-3で敗戦しましたが、選手は全国大会の経験を積む良き収穫でした。

秋季リーグ戦では、最終節で東海大学を破り3位で横浜市長杯に出場しました。

結果、白鷲大学に0-2で敗戦しましたが選手一人ひとりが着実に力をつけております。

今年度リーグ戦でも、選手・チームそれぞれが目標と課題を持ち、チーム一丸となりベクトルを合わせれば良いチームづくりができ、結果もついてくると思います。

応援席には部員・学校関係者・チャリディング部・吹奏楽部・家族・OBが多数駆けつけておりますので、スタンドを赤く染めましょう。我々OBもバックアップする所存です。皆様よりご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

我々OBも応援へ スタンドを赤く染めよう



帝京大学硬式野球部
OB会長
高橋 正臣 (1989年度卒)

よく食べて強いカラダへ

主務・池田圭吾が撮影！

帝京大学硬式野球部 1週間の夕食メニュー！

選手たちは、たんぱく質豊富な鶏肉と疲労回復の効果がある豚肉を使ったメニューに野菜や海藻を取り入れ、バランスの良い食事を取っています。おいしくてご飯が進みます！

帝京大学硬式野球部では、充実した栄養管理で選手たちのパフォーマンスをサポート。選手たちは日々の食事、体力強化や疲労回復などに努めています。



Sports Evolution

—スポーツは、ここから進化する。—

進化の主役はスポーツを「する」人のみならず、「みる」人、「ささえる」人といった、本学のスポーツを愛するすべての人々です。

大学スポーツの進化をめざす 帝京大学スポーツ局

帝京大学スポーツ局局长

岩出 雅之

帝京大学は、輝かしい実績を誇る強化クラブをはじめとし、一般クラブ、スポーツ医科学センター、スポーツ医学科などスポーツに関する学術研究・教育、および医科学的サポート体制や施設設備など、豊富な人的、物的、知的スポーツ資源を有しています。

一方、近年、社会の変化の中で、大学スポーツにおいても、ガバナンス構築、学業との両立や将来を見据えたデュアルキャリア支援、安全・安心なスポーツ環境づくり、スポーツインテグリティ（高潔性）、さらには大学スポーツを通した社会貢献の必要性が高まっています。

このような背景の下、2022年4月、帝京大学スポーツ局が設置されました。これまで、本学運動部の課題や要望を踏まえた改善や活動評価の実施などに取り組んでいるところです。スポーツ局は、次のミッションを掲げています。



スポーツ振興

スポーツへの参画を促進し、する・みる・ささえる人たちの活動支援を通して、楽しさやお互いの結びつきを高め、心身の充実を図るとともに、社会の発展に寄与する人材の育成に努める。

1. 学内スポーツの充実

（1）スポーツに触れる機会を創出する

気軽に参加できるスポーツイベントや体験スペース等を通して、多くの学生にスポーツへ導く機会をつくる。

（2）各クラブ活動の充実

①安全・安心な環境とガバナンスを構築し、健全で充実したスポーツ活動を推進する。

②人材育成と指導者の教育的・専門的技術向上を図る研修を行う。

2. 学術研究

スポーツ医科学やスポーツに関する研究を推進し、成果を学内外に提供するとともに、スポーツ教育の充実を図る。

3. 学外連携・社会貢献

自治体等との連携に努め、地域のスポーツ振興に寄与するとともに、スポーツを通じた地域貢献に努める。

強化クラブ室

スポーツ局の中にある強化クラブ室は、統一的な強化方針の下、7競技、8クラブを指定強化クラブとして選定しサポートを行っています。各種支援を通して、学業とクラブ活動に集中できる環境を整備し、学生生活の充実に向け取り組んでいます。主なサポートとして、以下のものがあります。

1. 競技生活のサポート

（1）医療サポート

スポーツ医科学クリニック（八王子キャンパス）において、けがや病気に対する迅速な治療対応の実施（帝京大学医学部附属病院との医療連携体制）。

（2）専門スタッフによる多角的なサポート

スポーツ医科学センターのスタッフによるトレーニング指導や傷害予防および受傷後の復帰に向けたリハビリテーション、栄養指導等。

2. 学生生活のサポート

学生支援課学生支援室における各種相談や、教務課が行う学修支援、学生支援課キャリアサポートセンターによる就職・キャリア支援。

T



帝京スポーツサポーターの会

2022年度より発足した帝京スポーツサポーターの会は、本学のスポーツを「みる」「ささえる」ことに関心を有し趣旨に賛同する本学の教職員、学生、卒業生等が会員となり、スポーツ局と連携し本学スポーツに係る諸活動を支援し、スポーツ振興を図ることを目的にしています。

同会には活動内容に応じ、①パブリシティ、②イベント、③メディカル・ハイパフォーマンス、④マーケティングの4つのチームが置かれており、それぞれ会員募集活動や情報発信、強化運動部の応援イベントや学生トレーナー勉強会等の事業に取り組んでいます。この会が、スポーツを通して、多くの帝京大生が「つながる」一助となり、本学スポーツの振興につながるよう活動を進めています。一緒に帝京大学のスポーツを盛り上げてくれる学生や教職員、ファンの方を募集します。



帝京大学八王子キャンパス 学生支援課 キャリアサポートセンター

帝京大学では、学生のキャリア支援体制にも力を入れています。自らの資質に目を向け、実践的な就業体験をすることで、将来へのビジョンを明確にできるよう、さまざまな形で支援を行っています。

就活支援イベント>主な支援行事(一例) ※■は対象年次のみ、□は全学年参加可能

一年次

■アセスメントテスト

■1・2年生のための

夏期・春期インターンシップ講座

■障がい学生・配慮が必要な学生のための
就職ガイダンス前期編・後期編

□外国人留学生就職ガイダンス(全三回)

二年次

■1・2年生のための

夏期・春期インターンシップ講座

■障がい学生・配慮が必要な学生のための

就職ガイダンス前期編・後期編

□公務員入門ガイダンス

□外国人留学生就職ガイダンス(全三回)

三年次

■就職ガイダンス

□インターンシップ講座

■障がい学生・配慮が必要な学生のための
就職ガイダンス前期編・後期編

□企業・公務員OBOG座談会

□公務員・独立行政法人等しごとセミナー

□学内合同企業説明会

□外国人留学生就職ガイダンス(全三回)

四年次

■学内合同企業説明会

■個別企業セミナー兼一次選考会

■公務員二次面接対策

八王子キャンパスの
キャリア支援
詳しくはこちら▶



体育会学生向け就職支援

多様な進路選択ができるよう、各クラブの指導者と連携し、忙しい体育会学生に合わせたイベント等の案内や個別面談を実施しています。これにより、体育会学生を積極的に採用したい企業の紹介や公務員対策を早期に行うことで、部活動と就職活動の両立が可能となります。

学内合同企業説明会

八王子キャンパスでは、キャリア教育支援の一環として3～4年次の学生を対象に、優良企業を集めた合同企業説明会を開催します。多くの企業・団体が参加するため、学生は自分に合う企業を見つけることができます。

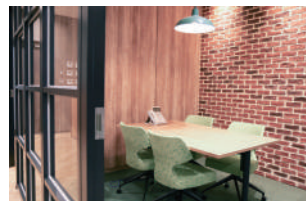


公務員課外講座

公務員採用試験に向けて、しっかり試験対策をしていくために、プロの講師から勉強のサポートや試験突破のコツなどを効率よく学修できるよう支援を展開しています。毎年、公安系（警察・消防など）のほか行政職（県庁・特別区など）にも多く就職しています。

個別サポート

さまざまな業界出身のキャリアアドバイザーが常駐し、学生の進路相談にのっています。書類添削、模擬面接、個別相談など指名制で受けることができ、学生一人ひとりに寄り添い支援をしています。



Sports Science & Medicine

帝京大学スポーツ医科学センター

スポーツ医科学をさらに究め、 学生たちを安全に、健康に、強くする

帝京大学スポーツ医科学センターは、「メディカル」「サイエンス」「アスレティックトレーナー」「ストレングス&コンディショニング」「栄養」「コーチ」の各分野の専門スタッフがチームを結成し、分野を超えた連携をしながら各クラブをサポートしています。“うちかつ強さを”をスローガンに掲げ、学生アスリートの希望を叶えられるように多角的なサポートをしています。



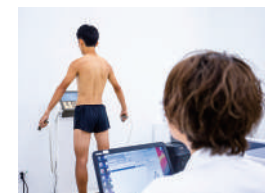
各クラブを6方面から支えるトータルサポートシステム

コーチ

専門的な知識を活用し、アスリートサポートを実現する

管理栄養士

体づくりの目標に応じてけがや病気をしない栄養管理を行う



Inbody



帝京大学スポーツ
医科学センター
ホームページ

国内屈指のスポーツ医療でアスリートを守る

帝京大学スポーツ医科学センターは、国内有数の充実した医療設備を備え、スポーツ損傷の予防と治療に取り組んでいます。スポーツ医療を推進する「メディカルチーム」の強みのひとつは、エコー（超音波）による診療です。スポーツ医科学センターの1階にあるスポーツ医科学クリニックでは、選手は診察室に入ってから、わずか数分で適切な診断を受けられます。たとえば、柔道で肘がけがした場合、エコーを用いればどのじん帯がどの程度損傷しているのかまでその場で診断できます。そのため、その選手に適切な治療やリハビリを、トレーナーと連携して速やかに提供できるのです。また、けがを早期発見して悪化を防ぐことや、けが予防のためにトレーニングを見直すことも可能です。さらには、学内外の医療機関と連携しているため、状況に応じて肘や膝など各分野の権威とされる医師を紹介することもできます。ありとあらゆる手段で選手を守ることが私たちの役目です。

メディカル

メディカル

スポーツ損傷やアスリートに関する疾患の治療・研究を進める



高気圧酸素治療



帝京大学医学部附属病院
(東京都板橋区)

サイエンス

サイエンス

バイオメカニクスや運動生理学に沿って測定・研究を行う



環境制御室



MPI Tokyo



コーチ

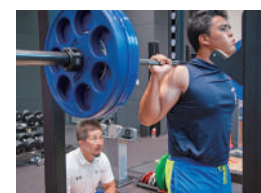
管理栄養士

ストレングス&コンディショニング コーチ

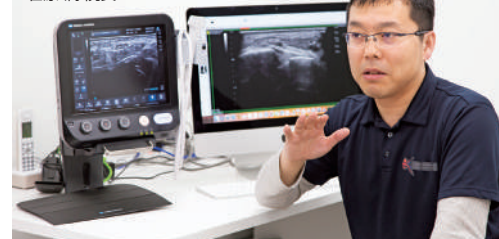
アスレティック トレーナー

ストレングス&コンディショニングコーチ アスレティックトレーナー

競技復帰やパフォーマンス向上に向けた取り組みを
競技現場でアスリートとともに実践していく



帝京大学
スポーツ医科学クリニック
笹原 潤 院長





OB INTERVIEW

福岡ソフトバンクホークス

大友 宗

大学の4年間は 充実の施設をフルに活用 抜群の身体能力を武器に 支配下登録をめざす

© SoftBank HAWKS

――大友選手が入学した年（2018年）が、帝京大学スポーツ医科学センター開所1年目でもあったそうですね。

野球とトレーニングに打ち込める環境がそろっていたことは、帝京大学進学を決めた大きな理由のひとつでした。「4年間、プロをめざして頑張ろう」という気持ちで入学しましたが、私は当時の体重が70キロ前後と、非常に細かった。大学野球の先輩方を見ると体が大きく、プロをめざすにはまずトレーニングが必要だと思いました。そこで、大川先生、内田先生に教えを請いながら、トレーニングを始めました。

――硬式野球部や大学の施設は4年間、どう使いこなしましたか？

私は教職課程を履修していたため、3年途中まではほぼ平日の

福岡ソフトバンクホークスの大友宗捕手は、2024年の育成ドラフト3巡目で念願のプロ入りを果たした。支配下登録をめざして日々野球に打ち込む大友捕手は大学生時代、どのように野球と向き合っていたのだろうか？

取材・文 前田 恵

練習に参加できず、授業が終わって寮に帰ってから自主練をする形が多かったですね。ウエイトトレーニングルームにいた時間はとても長かったと思います。あとは授業の入っていない時間に、スポーツ医科学センターへ通っていました。

――その結果、ご自身の成長を明らかに感じられたのはいつごろ、どんな部分でしたか？

体重の面でいうと、1年間で10キロ近く増えました。また「カイザー」というマシンで、パワーだけでなく瞬発的なスピードも養うことができました。実際飛距離も出るようになりましたし、足も速くなりました。

――リーグ戦での思い出は？

4年春、桜美林大学との優勝決定戦です。（4対4の同点で迎えた7回、満塁から勝ち越しを決める中越え二塁打を打たれました。自分がマスクを被り、自分の指で出した「ストレート」のサインで勝敗が決まってしまった（4対1で敗戦）ので、最も印象に残っています。窮地に立ち、四球を恐れて結果的にその投手の「最もいいボール」を選択しましたが、配球は抑えた球が「正解」。そういう意味では失敗でした。その投手がずっと練習していたスライダーで勝負する選択肢もあったのに……。1球の重み、準備の大切さを痛感しました。

――では、寮生活での思い出は？

同級生みんな仲が良く、休日になると寮近くのきれいな川まで歩いて行って遊んだり、湘南の海までみんなで遠出したり。コロナで外出制限のあった時期、寮のラウンジで学年を超えてワイワイ、おかしな話をして楽しんだのも、良い思い出です。

――大友選手は大学卒業時、プロ志望届を出しながらドラフト指名漏れました。そこから社会人、独立リーグを経て今回の指名を勝ち取るまで頑張れたのは、何が一番大きかったですか？

「日本一レベルの高い場所で野球をしたい」という純粋な気持ち、でしょうか。もちろん社会人野球も非常に魅力があり、たくさん勉強させてもらいました。でも、一番上の世界をめざしたい気持ちがあるのを上回りました。

――今、プロのスタートラインに立つて、どんな気持ちですか？

いつか振り返ったときに、「この1年はできる限りのことをやり切ったな」と胸を張って言えるくらい心の構えで取り組むつもりです。自分の持ち味である身体能力をグラウンドで表現し、パフォーマンスにつなげられるよう、また自分の元気なところやコミュニケーション能力を生かし、細部にまで目を配りながら、さまざまな角度からチームを勝たせられる選手になりたいです。

T

卒業生の進路(一部抜粋)

プロ野球

益山 性旭	（1976年度卒	阪神タイガース・投手）	
佐藤 康幸	（1994年度卒	中日ドラゴンズ→広島東洋カープ・投手）	
愛敬 尚史	（1998年度卒	大阪近鉄バファローズ→東北楽天ゴールデンイーグルス・投手）	
里崎 智也	（1998年度卒	千葉ロッテマリーンズ・捕手）	
窪田 淳	（1999年度卒	阪神タイガース→オリックス・ブルーウェーブ・投手）	
山本 賢寿	（2003年度卒	読売ジャイアンツ・投手）	現役選手
青柳 晃洋	（2015年度卒	阪神タイガース→フィラデルフィア・フィリーズ・投手）	現役選手
西村 天裕	（2015年度卒	北海道日本ハムファイターズ→千葉ロッテマリーンズ・投手）	現役選手
塩見 泰隆	（2015年度卒	東京ヤクルトスワローズ・外野手）	現役選手
廣畑 敦也	（2019年度卒	千葉ロッテマリーンズ・投手）	現役選手
大津 亮介	（2020年度卒	福岡ソフトバンクホークス・投手）	現役選手
大友 宗	（2021年度卒	茨城アストロプラネッツ→福岡ソフトバンクホークス・捕手）	現役選手

独立リーグ

井田 尚吾	（2022年度卒	神奈川フューチャードリームス・投手）
-------	----------	--------------------

社会人野球

井芹 隆浩	（2002年度卒	国際総合伊勢原クラブ・監督）
末永 彰吾	（2009年度卒	NTT東日本・コーチ）
田口 蒔人	（2015年度卒	CLUB Rebase・監督）
阿部 卓未	（2020年度卒	JR四国・投手）
金田 悠太郎	（2020年度卒	東海理化・投手）
中川 航	（2020年度卒	東邦ガス・投手）
後藤 将太	（2020年度卒	JFE西日本・捕手）
吉川 雄真	（2020年度卒	オールフロンティア・外野手）
戌亥 颯一郎	（2021年度卒	ニチダイ・投手）
岡野 佑大	（2021年度卒	Honda・投手）
宮川 将平	（2021年度卒	日本製紙石巻・内野手）
草野 里葵	（2021年度卒	エイジェック・外野手）
鈴木 翔也	（2022年度卒	JR東日本東北・投手）
岡野 龍太	（2022年度卒	Honda鈴鹿・外野手）
光本 将吾	（2022年度卒	東芝・外野手）
佐伯 涼	（2023年度卒	IMF BANDITS 富山・投手）
穴水 芳喜	（2023年度卒	日本製鉄鹿島・捕手）
作本 怜央	（2023年度卒	兵庫県警桃太郎・外野手）
川崎 翔陽	（2024年度卒	矢場とんブースターズ・投手）
榮 龍騰	（2024年度卒	東邦ガス・投手）
菅原 天斗	（2024年度卒	マルハン北日本カンパニー・投手）
松尾 英聖	（2024年度卒	ツネイシブルーパイレーツ・投手）
今崎 圭泰	（2024年度卒	サムティ・外野手）
島野 圭太	（2024年度卒	鷺宮製作所・内野手）
山本 晃聖	（2024年度卒	JR東日本東北・内野手）

軟式野球

SGホールディングス、朝霞市役所、横浜信用金庫、Dynabook、ベスト、ライズネット、JA町田市、和合会 和合病院

一般就職

オカムラ、フランスベッド、パナソニックリビング近畿、総合警備保障、高等学校教員、福屋ホールディングス、萩原工業、スリーボンド、トヨタモビリティ東京、サンコーインダストリー、日本カバヤ・オハヨーホールディングス、エン・ジャパン、東海新建立業、セコム、学校法人帝京大学、グッドライフ、イシハラ、東京都教育委員会、エービーシー商会、アーキヤマダ、岩手銀行、リクルート、西原商会、クリヤマジャパン、ミサワホーム、戸田中央メディカルケアグループ、CTCテクノロジ、北陸銀行、ピーライト、済生会川口総合病院、VILLAGE、日本赤十字社和歌山支部

※2020年度～2024年度卒の5カ年実績

帝京大学硬式野球部 イヤーブック発刊に寄せて

学校法人帝京大学 理事長
帝京大学 学長
冲永 佳史

本学における指定強化部の活躍が近年頼もしくも目立っておりますが、このような流れを形作るにあたっては近道はなく、日々の積み重ねの結果として表立ってくるものであります。強化に向けたあらゆる努力を地道に続けてきたからこそ、めざましい実績につながっているのです。

しかしながら、目立つことが目的になってはいけないと考えております。大学におけるスポーツはプロスポーツと異なり、あくまでも教育機関が行っている活動であり、必要な知識や技術を客観的に見つけ吸収し、現在そして将来において、競技力向上の下地をつくるということもさることながら、人としての構えを身に付け、多様な人とかわりながら仕事を進めて行ける知恵や社会性を醸成することに重点を置いています。

各練習施設やトレーニング施設の拡充はもちろん、競技力向上のために必要なトレーニング方法や食の管理、けがの際の適切な治療などを施す、大学付設のスポーツ医科学センターや接骨院のバックアップ体制などのほか、普段の授業すべてが学生の育成を目的として存在しています。

よって、指定強化部で活動している学生諸君につきましては、これら本学における支援体制を存分に活用し、教職員をはじめとしたさまざまな人々とかわり、経験を積んで社会の中で活躍できる人材へと成長していただけることを心から期待しております。

帝京大学硬式野球部 イヤーブック 2025

2025年5月発行
撮影：川本 聖哉
デザイン：谷村 耕太郎 (threelight)
発行：帝京大学本部 広報課
東京都板橋区加賀2-11-1

 **帝京大学**
TEIKYO
<https://www.teikyo-u.ac.jp/>

本誌掲載記事、写真等の無断複製・転載を禁じます。
© TEIKYO UNIVERSITY 2025



帝京大学 硬式野球部 公式ホームページ

最新の試合結果やニュースをはじめ、部員紹介や動画まで、さまざまな情報をお伝えしていきます。

<https://www.teikyo-sports.jp/baseball/>

帝京大学 硬式野球部

検索

公式SNSアカウント



SORA RATIO 宙×理性＝可能性

SORATIOとは…

果てしない天空、宇宙のように
無限に広がる空間を表す「宙＝SORA」と
ラテン語で「理性」を意味する
「RATIO」を組み合わせた造語。

帝京大学の学生一人ひとりの可能性が
無限に広がっていく様を表現しています。
また高層部・低層部からなる建物群を
SQUARE（広場）として捉え、
「SORATIO SQUARE（ソラディオ スクエア）」と
名づけました。

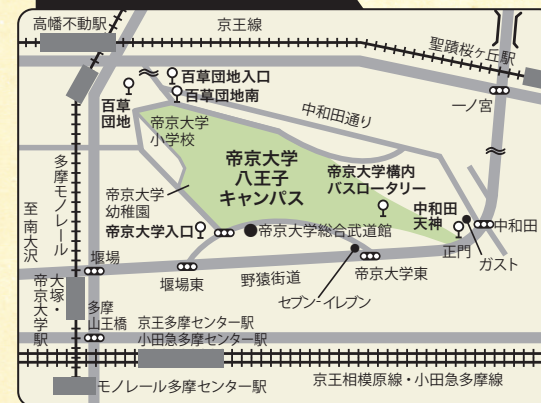
キミの広がる無限の可能性

充実した学びの環境 SORATIO SQUARE

帝京大学八王子キャンパスは、授業や学校生活の拠点となる、地上22階、地下2階の校舎SORATIO SQUAREを中心としたキャンパスです。

多摩丘陵の豊かな景観や地形と一体化したデザインは帝京大学の教育理念や伝統ある学問の積み重ねを表しています。

帝京大学 八王子キャンパス MAP



全国に広がる 5つのキャンパス

八王子キャンパス

板橋キャンパス

宇都宮キャンパス

福岡キャンパス

霞ヶ関キャンパス

「八王子キャンパス」で学べる学部学科

経済学部

経済学科
国際経済学科
経営学科
観光経営学科

法学部

法律学科
政治学科

文学部

日本文化学科
史学科
社会学科
心理学科

外国語学部

外国語学科
国際日本学科

教育学部

教育文化学科
初等教育学科

医療技術学部

スポーツ医療学科
※健康スポーツコース/
トップアスリートコースのみ